



同窓会誌
伍桃



特集
P01~06

AT・SW 連携研修会

(義肢装具自立支援学科)

(社会福祉学科)

CONTENTS

- P07 ホームカミングデー | P09 連携総合ゼミ(在学生支援事業) | P11 同窓生は今 | P13 学科同窓会開催案内 | P14 同窓会活動報告
P15 強化指定クラブ活動報告 | P17 大学トピックス | P18 同窓会広報 | P19 卒業生への祝辞



AT・SW連携研修会

(義肢装具自立支援学科)

(社会福祉学科)

at the Tokyo International Forum



2015年11月28日(土)、東京国際フォーラムにて『AT・SW連携研修会』が開催されました。今回、全体会では初の試みとして「パネルディスカッション」方式を採用し、医療現場での“あるある”なケースを取り上げ、6名のパネリストを中心に議論が取り交わされました。

当初、現場での連携機会が少ないのでは?と心配されたAT(義肢)とSW(社福)の両学科でしたが、NR(看護)卒生をパネリストに加えることで非常に実践的な内容となりました。

症例1	症例2	症例3
<p>60代女性、両下肢に義肢と10代学生・20代看護師の学生を主とした人妻。思わぬトラブル発生し、自衛隊に入院してからの、二世帯で暮らす人妻。自衛隊勤務による不眠症、不眠症治療による不眠症治療による不眠症治療として、手帳をカセットテープの録音機を使用して記録している。妻の病状が、自衛隊に入院した。</p> <p>トラブル1 義肢の受け入れ</p> <p>トラブル2 過度な期待</p> <p>トラブル3 贈戻・遺失</p> <p>トラブル4 濡れ衣</p>	<p>60代男性、妻と二人暮らし、子どもは独立している。腰痛、関節は痛む。妻はパチンコ。性格は短気で手主健白、舞踏鑑賞のため地下鉄に下車後が出現。地下鉄職員を地下鉄に作成。</p> <p>トラブル1 オーダー後退院</p> <p>トラブル2 知らなかった</p> <p>トラブル3 合わない義肢</p> <p>トラブル4 贈られた義肢</p>	<p>60代男性、妻と二人暮らし、子どもは独立している。元看護師。定額給付金、贈戻は山手、ゴルフ。性格は几帳面で下校が強い、加齢。左上下肢麻痺、下校の安定性向上の為に下校義肢を作成。</p> <p>トラブル1 義肢に無理な注文と間違った知識</p> <p>トラブル2 プロなんだから義肢なしで治せ</p>

演題 『現場の(連携)あるある』

パネリスト

郷 貴博 様 (加藤義肢製作所)
 坂内 沙織 様 (あおやまメディカル(株))
 江里口恵子 様 (宝塚リハビリテーション病院)
 伊藤志津子 様 (新潟県立津川病院)
 久保 裕子 様 (新潟大学医歯学総合病院 神経内科)
 山田 麻美 様 (新潟大学医歯学総合病院 手術室)



義肢装具自立支援学科 2011年卒 坂内 沙織 様
 あおやまメディカル株式会社勤務

打 合せの段階から連携先と他学科の先輩方とお話させていただき、仕事上で関わることの多いソーシャルワーカー・看護師の方々がどのように考えているのか、気にかけているのかを知ることが出来ました。また、自分の仕事での役割や考え方、取り組み姿勢について改めて考えるきっかけにもなりました。当日は緊張もあり、お伝えしたいことをすべてお話出来たわけではありませんが、卒業後に他学科の皆さんと出会い、繋がりを持つということはなかなか出来ないもので、そのような場に参加させていただけたことに感謝しております。

今まで気づきませんでしたでしたが、近く同窓生がいるということは心強いことだと思います。今回出来た繋がりを今回限りせず、頼りにさせていただければと思います。ありがとうございました。



社会福祉学科 2007年卒 伊藤 志津子 様
 新潟県立津川病院勤務

義 肢装具自立支援学科との連携は、互いに何を求めているのか、どんなツールを使い、いつのタイミングで実施すべきかを考える時間となりました。保健・医療・福祉の連携の中に、義肢装具士を『専門職』というより『職人』として別枠、特別視しているところが恥ずかしながら私にはあったようです。在学中に設置されていなかった学科のため、共に学べず、また就職後も院外から派遣される義肢装具士へ自分自身から歩み寄ることができていなかったのも事実です。この度の研修会では、義肢装具士がいかにトラブル回避や患者さんのQOL向上のために欠かせない存在であるかを再認識することができました。「全ては患者さんのため」と情報共有していくと改めて感じました。

現在、新潟医療福祉大学の学科は、私たちが在学していた頃より増えています。他学科との交流が広げられる環境を羨ましく思い、また今後も新潟医療福祉大学の強みである連携について深められるよう期待いたします。

研修会を通して先生方や活躍される先輩や後輩と合流できたことは、来年就職して10年目を迎える私にとって、足元を見つめ直す機会にもなりました。

このような貴重な経験を与えて下さったことに、大変感謝しております。



義肢装具自立支援学科 2011年卒 郷 貴博 様
 加藤義肢製作所勤務

私 自身パネリストを務めさせていただき、改めて専門職間における連携の重要性を認識させられました。QOLサポーターとして対象者を最大限にサポートするためには、各分野の専門職個々のサポートももちろんですが、それだけでは不十分であり、各分野で連携を取りながら情報を交換することで初めてQOLサポーターの役割を果たせるのではないかと感じました。卒後もそうですが、学生の時からそれを意識できる本学は非常に高度な教育をされているのだと、改めて感じました。



社会福祉学科 2007年卒 江里口 恵子 様
 宝塚リハビリテーション病院勤務

一度は連携研修会に参加させていただきありがとうございました。卒業しても、大学との繋がりを持てるということは大変嬉しいことです。また、この度は学科を越えて先生方、先輩や後輩達との出会いがあり、一緒に過ごせた時間は貴重なものとなりました。

パネルディスカッションのパネリストということで、準備段階から義肢装具士や看護師だけではなく、他職種の方とも内容を何度も検討しました。パネルディスカッション形式はこの会で初めての試みでしたが、自分達が働く現場の生の声を交換できるということで、聞いてくださっている皆さんも共感しやすく、一緒に考えることのできる研修となったのではないのでしょうか。参加した皆さんと距離を近くしてお話できたこともとても嬉しかったです。

大学の教育基本理念である「QOLを支える人材を育成する」という一つの形が、この研修会で実感できるのではないかと思います。在学中から学んだ連携やチームアプローチという内容を、具体的に他職種間でディスカッションしたり合同で発表するということは、なかなか得ることのできない機会です。その内容や場面を先生に見ていただける。参加したそれぞれがお互いの成長した姿に目を輝かせ、意見を述べ合い、これまでの一人ひとりの生き方を大切にしながら、また明日からもがんばろうと思える。その気持ちが、どんな現実や現場に自分達がいようと、目の前にいる人や自分自身の笑顔をお願い「大切にすべきことは何か」と原点に戻る。そんな、とても有意義な会だったと思っています。

大学や在校生を含めた後輩たちへ、卒業生がこんなふうに頑張っていますよ、と伝えられること、またその姿を見て大学に関わるすべての人たちが新潟医療福祉大学っていい大学だよな、と思えることに繋がる機会だったと思います。

改めて、参加させていただきありがとうございました。

看護学科卒のお二人も貴重な
 ご意見ありがとうございました！

左：久保 裕子 様
 (2010年卒：新潟大学医歯学総合病院 神経内科勤務)
 右：山田 麻美 様
 (2010年卒：新潟大学医歯学総合病院 手術室勤務)



全体会後は学科ごとに分かれての分科会が開かれ、2名の発表者にそれぞれの勤務先での症例を発表していただきました。



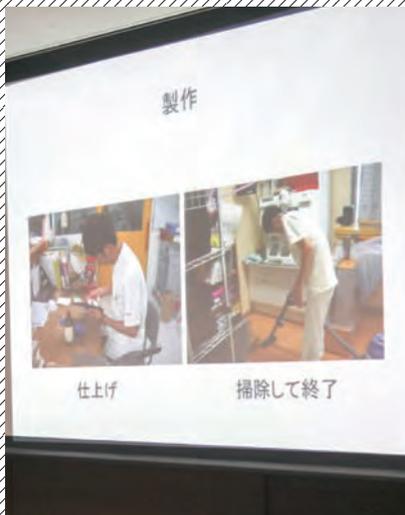
Akira Ohshima

←①「両踵骨折に対する両PTB式免荷装具～症例をもとに～」
義肢装具自立支援学科 2011年卒 大島 朗 様 (株)田村義肢製作所勤務

↓②「劇症型A群β溶連菌感染症に起因した大腿切断の1例」
義肢装具自立支援学科 2013年卒 秋場 周 様 加藤義肢製作所勤務



Makoto Akiba



①「医療ソーシャルワーカー
実践報告」



Mami Kumagai



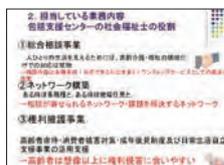
社会福祉学科 2010年卒

熊谷 麻美 様

社会福祉法人新潟市社会事業協会 信楽園病院勤務

この度、分科会の研究発表で「医療ソーシャルワーカー実践報告」をさせていただきました。資料作りに時間と労力を要しましたが、最後には達成感が残りました。MSW(医療ソーシャルワーカー)の業務は多様化し、効率が求められるあまりMSW自身に余裕がなくなり、自分の実践を振り返る時間すらない現状があります。この度、このような機会を設けていただいたことにより、日頃の実践を再認識することができました。研修会を通し「常に当事者感覚を持ってクライアントに近づき、問題解決の方策と一緒に考えていく必要があること」「日々出会うクライアントからの学びは私たちに多くの示唆を与えるということ」を改めて痛感しました。今後一つひとつのケースに集中して向き合い、MSWとしての醍醐味を感じながら、MSWの質を高めていけるよう日々努力していきたいです。

②「地域包括支援センターの業務
～社会福祉士としての地域との関わり～」



Akira Takano

社会福祉学科 2005年卒

高野 朗 様

新潟市地域包括センター中之口・潟東勤務

「10年ひと昔」ということわざ(?)がございますが、まさにその通りと思う節がありました。このたび発表させていただきましたが、今回の発表内容が10年後も通用するとは必ずしも思っておりません。今では当たり前となった介護保険制度が、私たち第1期生が卒業した10年前は正にこれから始まる・・・という時代であったことからも明らかです。そして、そういった変化の積み重ねこそが専門職としての質の向上とも思っております。さらに申し上げれば、その主役は我々ではなくこれから卒業を迎える在学生です。

今回のような場が、今後の卒業生にとってもそのことを確認できる場としてあり続けることを祈っております。



懇親会

そして最後は懇親会。先輩後輩が入り交じり、学生時代の思い出から職場での現況まで、お酒の力も借りながら(?)語り合う楽しい時間となりました。



総評

General Comment



素晴らしい発表でした！
キリン

新潟医療福祉大学同窓会
首都圏支部副支部長
健康栄養学科 2005年卒
岡村 聡之 様

今回の全体会は、日常業務で起こりうる対象者の問題点に対し、各専門職種への対応を活発に議論されていました。各専門職種間で連携して情報共有しながら、対象者を支援する重要性を再認識できました。分科会では各専門職種の業務内容や実績などを知ることができ、懇親会では情報交換の場として有意義な時間を過ごせました。

本研修会に参加されました皆様に御礼申し上げます。今後も同窓会主催のイベントに参加お待ちしております。



AT・SW 連携研修会



第**5**回

ホームカミングデー
「あそびの広場」開催!



平成27年10月11日(日)、**第5回 ホーム
カミングデー「あそびの広場」**

を開催いたしました。当日はあいにくの雨模様でしたが、150名以上の方にご来場いただきました。今回のホームカミングデーは「**パパ&ママ**」になっている同窓生にも楽しんでいただけるよう、親子YOGAやレクリエーションスポーツ体験、プロカメラマンによるキッズ・ファミリー写真撮影など『**親子で楽しめる**』企画を展



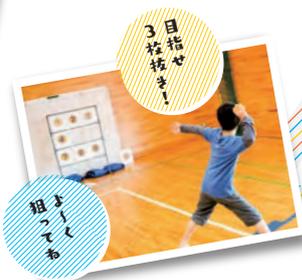
芸術作品
完成!



僕も今日から
アマフト選手

開!! スポーツインストラクターとして活躍している同窓生もスタッフとしてご協力いただきました。

たくさんのおびっこ達が走り回ったり、かっこよくポーズをきめて写真撮影をしたり、パパ&ママは運動不足の身体から大汗を掻いていたりと・・・(笑)多くの親子で会場は**熱気ムンムン!**大いに盛り上がりました!!



目指せ
3校きき!



同時開催していた「**伍桃祭**」にも足を運んでいただき、慣れ親しんだ校舎での思い出に浸り、楽しいひと時を過ごしていただけたのではないのでしょうか。多くの皆さまにご来場いただき**本当にありがとうございました。**



職人魂に
火がついた

狙って
よしく



ホームカミングデー総評
健康スポーツ学科 2014年卒
濱田 祐輔 様

*General
Comment*



当日は雨模様となり、予定していた会場を変更しての開催となりましたが、多くの方々にご参加していただきました。ちびっ子たちが元気よく遊んでいる様子がとても印象的でした。また、健康スポーツ学科卒業の先輩方や学生スタッフの皆さんにもご協力いただき、同窓生との交流の場としても貴重な体験だったと感じました。5回目になるホームカミングデーにおいて体験型のイベントは新たな試みでしたが、今後も同窓生の皆さんから大学に足を運んでもらえるような楽しい企画を作っていきたいと思います。ご参加いただいた皆さん、本当にありがとうございました！！

健康スポーツ学科 2009年卒
亀倉 桃野 様
YOGAインストラクター



ホームカミングデーで「ヨガ」を行わせていただきました。大学を卒業して約7年が経ちましたが、卒業生としてこのようなイベントに関わることができ、大変嬉しく思っています。普段は主に新潟市内でヨガレッスンを開催していますが、当日は大学の体育館にて多くの方々と一緒にヨガを行いました。在校生や卒業生、大学周辺に在住の方や子どもたちも参加してくれて私自身とても楽しかったです。良い経験をさせていただきました。ご参加いただいた皆様ありがとうございます。これからも在校生、卒業生、色々な人が連携し、同窓会のイベントがさらに盛り上がっていくと嬉しいなと思います。

健康スポーツ学科 2010年卒
野村 理絵 様
NPO法人総合型地域スポーツクラブ ハビスカとよさか勤務

今回のホームカミングデーで私は、現在勤務している「総合型地域スポーツクラブハビスカとよさか」のスタッフとして、「体力チェックブース」の企画運営で参加させていただきました。当日は親子で参加してくださる方や在学生、卒業生など様々な方に体験していただき、楽しんでいる姿を見られたことがとても嬉しく印象に残っています。また久しぶりに母校で在学生と一緒に活動させていただいたり、在学中にお世話になった先生とお話をさせていただく機会があったりと、当時の懐かしい気持ちを思い出すと共に、自身の卒業からこれまでを振り返る大変貴重な経験となりました。今後も卒業生としてスポーツを通じた豊かな地域づくりに貢献できる人材を目指し、日々の業務に取り組みていきたいとあらためて感じました。



Thank you!



専門職の方からの意見を聞くことで、今後、医療従事者として働くための1つの意見として学ばさせていただきました。【OT】

実際の現場ではどうしているのかが分かり、とても良かったです。また同窓生ということで質問がしやすかったです。【HN】

自分たちでは気づかない問題点や対策について、現場での経験を元にアドバイスを下さったので、とても良かったです。【CT】

現場で実際に働いている方の話を聞いて、具体的な支援を考えるのに役立った。自分たちの考えた支援で実際には実現できないことも知ることができ、現実的な支援を考えることができた。【SW】

在学生アンケートより (抜粋)

自分たちのチームにいない職種からの意見が聞けて、よかった。またアドバイスがもらえて、自分たちのテーマを深めることができた。【NR】

実際に社会で働いて得た知識を還元して下さるので、理想と現実のギャップを知ることができた。【PT】

連携 Cooperation

総合 Comprehensive

2015/09/07-11

2015年9月、本学にて行われた「連携総合ゼミ」(7日～11日)に、在学生支援事業として6名の同窓生が参加しました。すでに臨床現場で活躍中の先輩として、計12に分かれたゼミテーマを一つずつ訪れながら後輩たちへの事例紹介やアドバイスをを行いました。

今年度の連携総合ゼミテーマ一覧

- ① 脳性まひ(疑い)児と育児不安をもつ母への成長・発達支援
- ② 中高年者のメタボリックシンドロームの改善
- ③ 筋萎縮性側索硬化症(ALS)ケースの在宅療養実現への支援
- ④ わたしも町のような人になりたい(精神科領域)
- ⑤ 大阪市における小学生虐待死事例の検証(報道事例)
- ⑥ 切迫早産・妊娠高血圧症候群で入院が必要になった妊婦への援助
- ⑦ 脳卒中片麻痺者の自宅での生活
- ⑧ 開発途上国における障害のある人たちのための地域に根ざしたリハビリテーション
- ⑨ 高齢者糖尿病合併症の支援策
- ⑩ 重度四肢まひ者の家族復帰支援
- ⑪ 高齢者の骨折予防・治療と生活支援
- ⑫ 高齢者への投薬



ゼミ Seminar



社会福祉学科 2005年卒
菅野 渉 様

参加した感想ですが、自分にとって勉強になったと実感しております。一緒に回った他学科の同窓生のアドバイスを聞きながら、知らなかったこともあり良い発見に繋がりました。在学生については、一生懸命調べている姿が見てとれました。私たちに質問してメモしたり聞いていたりする学生がほとんどで、思った以上に社会福祉士の部分で役立つのかなとホッとしております。意外に面白かったです。



義肢装具自立支援学科
2011年卒
郷 貴博 様

学生の意識や意欲が非常に高く、真剣に取り組まれている姿勢に驚きました。教育として、非常に質の高い授業であると感じました。臨床に出ると、もっと多くの症例や問題が存在します。連携総合ゼミでも非常に貴重な経験をされたことと思いますが、卒業するまでにより多くの知識を蓄えておくと、臨床での活躍の場が広がると思います。



作業療法学科 2011年卒
高野 葵 様

各ゼミに参加させていただき、学生がとても真面目に一つの症例に取り組んでいる姿を見て頼もしい後輩がいることに感動しました。昨年度までの方式では一方向からのみの情報発信になっていましたが、在学生たちと言葉を交わし、考えを知ることが双方に利益のある活動になったと思っています。卒業生の皆さんにもぜひこの取り組みを知ってもらい、参加することに大きな意味があることを広めていきたいと改めて思いました。



健康栄養学科 2005年卒
吉川 萌 様

連携総合ゼミに参加した感想ですが、とにかく講義の内容が羨ましいと思いました。私の在学中も基礎ゼミがあり他学科と交流できたのですが、一つの症例に自分たちがどう関わっていけるかを考える場が少なかった気がします。大学では栄養について学んできましたが、実際に病院で働くにあたっては、栄養だけでなく薬のことや福祉のことなどをもっと勉強しておく必要があったと痛感しています。さらに、他職種が同じ目標や方向性を統一することで患者さまにより良いアプローチができることは、経験してこそ実感できたことです。こうした経験を在学中にできる今の学生が、とても羨ましいです。



同窓生の感想



言語聴覚学科 2007年卒
平野 祥子 様

在学生が自身の専門性を活かした意見を言えること、そして在宅に視点をのいた考え方ができるようになっている点についてはとても感心しました。少し矛盾しますが、まとめの段階に入っているアドバイスでは余計に混乱させてしまったグループもいたようです。その点はすみませんでした。現場では本当に様々な職種が協働しながら仕事をしています。同じ目標を持ちながら専門的な視点で物事を考える力が必要です。自身の役割を明確にすることはとても難しいと思いますが、効率よく支援するためには大切な事です。「自分なら○○ができる、こんな関わり方ができる」というような考え方ができるようになって下さい。自信がなくてもまずは形にすることです!こわがらずに意見を言いましょ!一緒にお仕事できることを楽しみに待っています!

同窓生は ALUMNI NOW!



言語聴覚学科
2014年卒
五十嵐万貴

勤務先

恒仁会 新潟南病院 リハビリ部

職務内容

言語聴覚士(ST)として嚥下機能評価やそのリハビリを中心に行っています。

学生時代の思い出

『RiRi』というフリーペーパー製作団体に所属したことです。『RiRi』を通して様々な人と出会い、今まで自分では考えもしなかったことを沢山経験しました。

大学の経験と仕事との関係

今村先生ゼミでの活動のおかげで、患者さんのどこを見れば良いのか、どの動作に注目すべきなのか、という視点が身につきました。先生がよく言っていた「患者さんとその家族にはそれぞれ背景となる物語がある」という

ことを常に考え、接するよう心がけています。

今後の夢と目標

STとして、安全な経口摂取のための評価を行うことはもちろんですが、患者さんが好きなものを食べるにはどうしたら良いか、食事意欲が増すにはどうしたら良いかを考えられる発想豊かなSTになりたいです。

同窓生め在學生にメッセージ

在學生の中には進路に迷っている人もいます。迷った時には思い切って、自分が今やりたいと思った別なことをやってみるのもいいかもしれません。もちろん我慢して続けるということも本当に立派なことだと思います。多くの経験は卒業後、大きな武器になります。大学の4年間はあっという間です。悔いのないよう過ごしてください。



社会福祉学科
2015年卒
木村 汐里

勤務先

社会福祉法人阿賀北福祉会 やまの里

職務内容

施設に入所されている方に対して、入浴、排せつ及び食事等の介助、生活に関する相談及び助言、その他の必要な日常生活上の支援を行っています。

学生時代の思い出

講義と講義の合間の空き時間に、友達みんなと食堂や中庭で過ごした時間が本当に楽し

かった！他愛ない会話をして、くだらない遊びをするだけだけど、一番の思い出です。

大学の経験と仕事との関係

大学では考える時間と、他者の考えを聞く機会が沢山ありました。

仕事をしていると、いま目の前にいる利用者様との関わり方は正しかったのか、もっと違う言い方をしたら伝わるのではないかと悩むことが毎日のようにあります。

大学では、1つのケースに対して友人が、時には他学科の他職種が、自分の考えを発表し、みんなで最善を考え話し合っていました。私は工作中、その時の話し合いを思い出し、違う方面からも考えてみよう、と多角的な視点を持つことができます。

働いて1年が経とうとしていますが未だに、「みんなならどうするか聞きたいー!」となるのが沢山ある私は、まだまだ未熟者だと痛感しています。

今後の夢と目標

私が勤務している施設は、身体障がい・知的障がい・精神障がい等様々な障がいを持った方が一緒に生活をしています。良くも悪くも互いに与える影響は大きく、生活しづらいと感じている人も少なくありません。今後は高齢者施設のユニットケアを障がい分野にも取り入れ、より一人ひとりの利用者様が生活し易い施設を作っていきたいです。

同窓生め在學生にメッセージ

在學生のみなさん！今は、あんな仕事があったい、こんな仕事があったい、と沢山の将来を考えてください。福祉に携わる仕事でも、そうでなくても、考えた分だけ可能性があります。そしてどの道を選んでも大学で過ごした4年間は自信と力になるので、その4年間を大切に過ごしてください。

同窓生のみなさん！仕事に疲れたらお酒でも飲んで、細く長く頑張っていきましょう！（笑）





義肢装具自立支援学科
2012年卒
山田 吉称

勤務先

さくらメディカル株式会社 新潟支店

職務内容

福祉用具のレンタル・販売、住宅改修

学生時代の思い出

国家試験に向けて、みんなと励ましあいながら一緒に頑張ってきたことは、とても印象に残っています。

大学の経験と仕事との関係

義肢装具士の資格を活かしてCMやお客様、施設のスタッフさん向けに靴の勉強会などをさせていただいております。また、福祉用具の選定において解剖学などの知識があることはお客様の状態を知るうえで役に立っています。

今後の夢と目標

自分の役割を考え、実行していくことで一人でも多くのお客様に笑顔になっていただくことを目標にしています。

同窓生や在学生にメッセージ

同窓生のみなさん、卒業してから会えない人も沢山いますが、フェイスブックなどで楽しそうに過ごしているのを見て刺激を受けたり、大学時代のことを思い出したりしています。また機会があればみんなで集まって飲み会や

フットサルをしたいです。

在学生のみなさん、大学時代という今の時間を思いっきり楽しんでください。ここで出会った仲間たちは、自分にとってかけがえないものとなります。人との出会いを大切に、これからも頑張っていってください。



作業療法学科
2011年卒
山本 さやか

勤務先

NPO法人地域たすけあいネットワーク

職務内容

「困ったときはお互いさま」の理念による、介護保険、障害者総合支援法、保険外でのたすけあい訪問、デイサービス、「地域の方の居場所」としてのカフェ、地域の方や障害者施設で作った雑貨や野菜などを売る「土間ショップ」など、様々な活動をしています。

学生時代の思い出

自閉症の子どもの風船バレーや、障がいの作業補助など、ボランティア活動に積極的に参加していました。さまざまな方とふれあいを持つ事で、視野が広がり、貴重な経験を積むことができたと思います。

大学の経験と仕事との関係

もともと障がいを持つ方のサポートがしたいという気持ちが強く、様々な活動を通し「年をとっても障がいをもって自分たちが暮らす地域で安心して暮らし続ける」ことをサポートするというこの仕事に惹かれました。現在職種としては作業療法士ではないですが、QOLやICFの考え方、基本的な障害の理解や生活における作業の意味など大学で学んだことが仕事に大変役立っていると感じています。

今後の夢と目標

ひとりの人生と、自分という人間が関わっていくことで、少しでも多くの笑顔が生まれれば嬉しいなあと思っています。

同窓生や在学生にメッセージ

今しかない時間を大切に、ぜひ沢山の人と出逢い、沢山の経験をしてください！その中で、何かひとつ自分のぶれない軸を作れると良いですね。どんな出逢いも経験も無駄ではなかったと、今となってはじわじわと思います！



CHEERS!



学科同窓会

き開催しませんか？

いま同窓会では、**学科同窓会の開催**を積極的に応援しています！

“卒業〇周年”といった大きな節目節目だけではなく、

「もっと同期で気軽に集まりたいね」

「仕事でこんな悩みがあるんだけど、

みんなはこういう時どうしてるのかな？」

といったお気持ちに応えられるよう

色々な支援策をご提案いたしますので、

お近くの役員までぜひひと声掛けてください！



PT 2期生 卒業10周年
同窓会

2016.5.21(土) 13:30
ラングウッドホテル新潟

皆さまおまちしてます
楽しみましょう！





合格祈願鉛筆 配付!

国家試験シーズンを迎え、
今年も同窓会から在学生の皆さんへ
合格祈願鉛筆を配付させていただきました。
同窓生からの熱い気持ちが
込められた鉛筆を持って、
全員合格を目指して…



頑張れ! 受験生!



同窓生も応援しました!

2015年10月25日(日)、杜の都仙台で行われた『第33回全日本大学女子駅伝対校選手権大会』に北信越地区代表として出場しました。4年連続4回目の出場となった今回は、6区間38.0kmを走り抜いたものの結果は24位(26チーム中)。まだまだ全国トップとの力の差があると痛感させられる結果となりましたが、大学、県、地区の代表としての誇りを胸に、また来年に向けたチャレンジに期待しましょう!



杜の都

大学女子駅伝



強化指定クラブ活動報告

バスケットボール部



男子・女子バスケットボール部 アベックでインカレ初戦突破の快挙!!

平成27年11月23日(月)より東京都内で開催された「第67回全日本大学バスケットボール選手権大会(インカレ)」で男子・女子バスケットボール部の両チームが揃って初戦を突破し、ベスト16進出という快挙を達成しました!!男子は3年連続4回目、女子は10年連続10回目のインカレで初の快挙となりました。

男子は延長にもつれ込む大接戦の末、残り0秒でのプザービーターシュートが決まり、劇的な勝利を収めました!女子は試合開始直後からリズムよくシュートが決まり、ディフェンスでも相手を圧倒!大きくリードを保ったまま勝利しました!!

男子・女子ともに2回戦にて敗退となりましたが、多くのOB・OGが応援に駆け付け、チーム一体・会場一体となった戦いを見せてくれました!

男子	新潟医療福祉大学 (北信越地区1位)	78	16-14 17-16 13-16 18-18 14-12	76	名古屋経済大学 (東海地区2位)
女子	新潟医療福祉大学 (北信越地区2位)	56	17-9 15-5 12-9 12-20	43	福岡教育大学 (九州地区1位)



北信越大学バレーボール選手権大会 初優勝!!全日本インカレベスト32!!

平成27年10月31日(土)より富山県で開催された「第63回北信越大学バレーボール選手権大会」で女子バレーボール部が悲願の初優勝を達成しました!!強化指定クラブとなり3年目にして、結成当初からの目標のひとつであった「北信越優勝!!」。決勝戦の最終セットは、21-24からの大逆転勝ちで、会場全体が盛り上がる展開となりました。

また、平成27年11月30日(月)より愛知県で開催された「第62回秩父宮妃賜杯全日本バレーボール大学女子選手権大会(スーパーカレッジバレー 2015)」で昨年を上回るベスト32という戦績を収めました。敗退した相手は西日本インカレ優勝チームでしたが、高さやパワーでは劣ることなく堂々と戦い抜きました。完成年度となる来年度は更なる飛躍を目指します!!



女子バレーボール部



【第63回北信越大学バレーボール選手権大会】

【準々決勝】vs 金沢星稜大学 { 2 25-17 0 }

【準決勝】vs 長野大学 { 2 25-19 0 }

【決勝】vs 金城大学 { 2 25-17 1 }

最終結果 優勝(初)!!

【第62回秩父宮妃賜杯全日本バレーボール大学女子選手権大会】

【1回戦】vs 愛媛大学(四国1部3位) { 3 25-14, 25-9, 25-21 0 }

【2回戦】vs 福岡大学(九州1部1位、西日本インカレ優勝) { 1 17-25, 25-22, 19-25, 15-25 3 }

最終結果 2回戦敗退(ベスト32)

水泳部



韓国で行われたユニバーシアード大会に日本代表選手2名を輩出(松井浩亮、佐藤綾)し、ユニバーシアード大会で2名ともリレーでメダルを獲得、更にオープンウォーターでもワールドカップ香港大会日本代表選手を輩出(青木陽佑)し、今年度は、日本代表選手を合計3名出すことができました。



サッカー部

いつも温かいご声援ありがとうございます。2016シーズンもチームを支えてくださる皆様と、試合会場で喜びと感動を共有できるよう全力を尽くします！

【2015年度 男子サッカー部 成績】

チーム

第43回北信越大学サッカーリーグ1部…4位
第39回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント北信越大会…3位
2015新潟日報杯・NHK杯・共同通信杯 第20回新潟県サッカー選手権大会…ベスト4

個人

高橋 和真(健康スポーツ学科2年 北越高校出身)
…ベストイレブン受賞



【2015年度 女子サッカー部 成績】

チーム

Plenusチャレンジリーグ2015 EAST…3位
第24回全日本大学女子サッカー選手権大会…ベスト8
第37回皇后杯全日本女子サッカー選手権大会出場

個人

高橋美夕紀(健康スポーツ学科4年 鳳凰高校出身)
ユニバーシアード2015/光州…3位、Plenusチャレンジリーグ新人賞、U-23日本代表選出



硬式野球部

リーグ戦では勝率の差で最下位となりましたが、一部・二部入替戦では2連勝し、一部残留しました。

平成27年 秋季1部リーグ戦

順位4勝9敗 6位

優勝 上武大学 9勝3敗 勝ち点4

2位 白鷗大学 8勝4敗 勝ち点4

3位 山梨学院大学 6勝5敗 勝ち点2

4位 平成国際大学 6勝8敗 勝ち点2

5位 関東学院大学 4勝8敗 勝ち点1

6位 新潟医療福祉大学 4勝9敗 勝ち点1

一部・二部入替戦 2勝0敗 一部残留

新潟医療福祉大学 8-2 作新学院大学

1-0 作新学院大学



陸上競技部

昨年は各全国大会で複数入賞を達成し、陸上競技部にとって飛躍の1年となりました。日本学生個人選手権4種目5名、日本インカレ4種目、日本ジュニア選手権3種目とこれまでの各大会での入賞者を大きく上回る結果を残すことができました。今年も昨年以上の結果を残せるようにチーム一丸となり頑張ります。



創部3年目のダンス部は8月、第28回全日本大学ダンスフェスティバル(神戸)において、東日本震災によって生じた瓦礫をテーマにした作品「声無き声—瓦礫が語るもの—」を披露し、昨年度に引き続き特別賞という名誉ある賞を受賞いたしました。立体的なパイプを瓦礫に見立てた表現と工夫された演出方法が高く評価されました。

また12月29日~31日の年末には日本代表の芸能団の一チームとして派遣され、中国青島市における「東アジア文化都市2015青島クロージング」に出演しました。このようにダンス部では国際的な発表の場も広げ、ダンス活動を着実に積み重ねています。いつも応援して下さる関係者の方々には心より感謝申し上げます。



ダンス部

新棟完成

間近です!

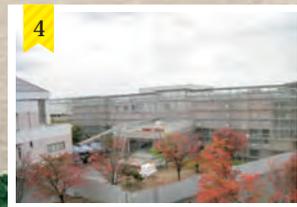
これまでもFacebookなどでお知らせをしてきましたが、いよいよ新棟(第2講義棟=Q棟、第4体育館=R棟)の完成が間近となりました。ますますキャンパスが活気にあふれますね!

完成が楽しみ!



第4体育館

第2講義棟



他学科連携研修会



役員会



同窓会は
こんな活動を
しています。

国家試験合格&大願成就鉛筆配付



在学生支援



ホームカミングデー



学生表彰



ホームページ・フェイスブック



伍桃



学科同窓会



その他、授業への同窓生派遣など様々なかたちで後輩たちへのバックアップをしています!



住所が変わったら...

フォーマットに変更事項を記載して送信ボタンをクリックするだけ!カンタンです!



同窓会に対するご要望やご質問は下記までどうぞ!

同窓会支援室連絡先

メールアドレス dosokai@nuhw.ac.jp

電話番号 025-257-4455

卒業生への祝辞



卒業おめでとうございます。皆さまに贈る言葉と関連して、NHKで放映中の朝の連続テレビ小説『あさが来た』のヒロイン広岡浅子を取り上げます。

「明治日本を動かした女性実業家」あるいは「教育者、キリスト教徒として活躍した女傑」と世に評されている彼女は、17歳で大阪の両替商・広岡家に嫁ぎました。しかし結婚してまもなく明治維新が起こり、広岡家は存亡の危機に立たされます。彼

女は当時のニュービジネスであった炭鉱の開発、銀行や保険会社の経営、後には日本初の女子大学の開設にも関わりました。特に炭鉱経営は苦勞の連続で「ダルマは“七転び八起き”したが、自分は“九転び十起き”する」と覚悟を決め、座右の銘を「九転十起」とした話は有名です。その後、61歳の時に乳がん手術、63歳の時にキリスト教の洗礼を受け、71歳で生涯を終えました。

情熱の人・ 広岡浅子に学ぶ

このような激動の人生を支えたものは一体何だったのでしょうか。私はそれが情熱であると直感しました。情熱とは「はげしく燃え立つ感情」(広辞苑)ですが、私はこの定義に“方向性”を表す言葉を加え、「自分の決めた目標に向かう激しく燃え立つ感情」としたいと思います。

ある書物によりますと、情熱をスイッチオンするためには常日頃の心の持ち方が大事であると言っております(水野元気著『成功は99%が情熱』、ダイヤモンド社、2013)。私はこの中から、彼女に当てはまるものを抜き出してみました。それは「使命感」、「失敗を恐れない気持ち」、「前向きな気持ち」、「感謝の気持ち」です。

これらの心の持ち方が、広岡浅子の事業に対する情熱を燃え立たせたと考えます。そしてこの情熱こそが、事業家としてだけでなく教育者としても成功した要因と思われる。



新潟医療福祉大学 学長 山本 正治



ここから私たちは学ぶものが沢山あります。それは、自らが進む道は自分で決めるということ。そしてどんな困難な場面に遭遇しようとも、自らが信ずる道を突き進むということです。その過程においては、信念を揺るがず事態に遭遇することもあるでしょう。しかし、そういう時にこそ、情熱を持続することが大事です。情熱の人・広岡浅子のエピソードを紹介し、臚の言葉とします。

(卒業式式辞を要約したものです。詳細は本学HP「学長メッセージ」をご覧ください。)

卒業生への祝辞

graduation



国際交流・
強化スポーツ担当
副学長
渡辺 敏彦

平成28年3月に卒業する12期生の皆さん、卒業おめでとうございます。大学で4年間学んだ知識・技術を駆使して社会人一年生として大活躍してくれることと確信しております。この機会に、サミエル・ウルマン(詩人)の「青春」という詩の一節を皆さんに紹介してお祝いの言葉と致します。「青春とは人生のある期間のことを示すのではなく、心のありかたをいうのだ。(中略)ときには、二十歳の青年よりも六十歳の人に青春がある。年を重ねただけで人は老いない。理想を失うとき初めて老いる。」即ち、挑戦する勇気と冒険心を失えば、それは青春とは言えないという意味です。皆さんには、入学時のキラキラした瞳と挑戦する気持ちを社会人としても常に持ち続け、人生を青春して頂きたいと思います。



地域連携担当
副学長
丸田 秋男

12期生の皆さん卒業おめでとうございます。本学では、この1月26日に学習院大学名誉教授の川嶋辰彦先生をお迎えして特別講演をお聴きました。川嶋先生は、弱者の立場を配慮する温かな視座による「他者理解」の大切さを説かれ、優れたQOLサポーターを目指す学生に対し「他者の悲しみや痛みに共感し、それらを共有できる理性と感性」を求められました。皆さんは、保健・医療・福祉・スポーツ等の第一線の現場で働くときに、どのような力量形成を図ろうとするのでしょうか。ケースワークの母と呼ばれたメアリー・リッチモンド(1861-1928)は、専門職にとっての最高の評価はクライアントの自己実現であり、それはクライアントに対する「無条件の敬意」と「温かい人間的な関心」をもつことによつてのみ得られるとされています。川嶋先生やリッチモンドの教えに耳を傾け、クライアントとの互惠関係を通じて、社会に貢献できる専門職として存分に活躍されることを心から願っています。

いまこの原稿を書いている最中は、多くの皆さん方は国家試験勉強に取り組んでいたことと思います。私が所属している義肢装具自立支援学科でも、4年生は正月・土曜日・日曜日返上で試験勉強に取り組みました。おそらく一生のうちでこんなに勉強したことはなかったのではないのでしょうか。不合格になるかも知れない学生も、余裕で合格できるような学生も一心不乱に勉強しています。ここまでくれば、たとえ不合格としても来年また頑張るぞという気持ちになるのではないのでしょうか。こんなに勉強したおかげで、初めて勉強の楽しさがわかり、ますます勉強に励んだという学生もたくさんいます。あらためて学生の本分は勉強することだと思います。これから社会に巣立っていく皆さんには、一生で一番勉強したと思える瞬間がこれから先に何回もありますよ。いや、そうでなくてはけません。勉強する楽しさを積み重ねて素晴らしいQOLサポーターになってください。



教育担当
副学長
江原 義弘

卒業生へ...

学科
メッセージ



理学療法学科

通至誠

作業療法学科

道



言語聴覚学科

良き理解者をたくさん持ち、
どんな苦難ものりこえる。
そんな人であってほしい。
みなさまの健康と幸せを
おいのりしています。



義肢装具自立支援学科

志

信頼される
専心専心!

臨床技術学科

日々新面目
あるべし





視機能科学科



「一を以て之を貫く」

我が生涯一つの職業に、つらぬける人は幸せである。
孔子「論語」より

健康栄養学科

着実に！
誠実に！
一歩ずつ



健康スポーツ学科

祝

贈る言葉
健全な身体に
健全な心
たくましい身体と
やさしい心



看護学科

ご卒業おめでとうございます。

看護界では、この10年間で100校の看護系大学が新設され、現在では240校を超えるまでになりました。10年間における大学の新設ラッシュからは、高度な看護を実践できる看護専門職への期待とうかがい知ることが出来ます。卒業は、看護専門職へのスタートです。社会の需要や期待に応えていくために、今まで以上の精進が必要になるでしょう。医療の現場で、新しい未来を切り開く皆さんのバイオニア精神に期待しています。

真面目で、いつも誠実だった皆さん、これから社会で出会うさまざまな問題にもきつと誠実に立ち向かっていくのでしょう。誠実さに加え、経験を培い、たくましい看護職に育ってくださることを願っています。今後の皆さんのご活躍を祈念しております。

社会福祉学科

矜持と情熱を

医療情報管理学科

TRY AGAIN!

粘り強く
決して諦めず
夢を忘れず
そして、楽しく!

同窓会会長挨拶



新潟医療福祉大学 同窓会会長
齊藤 公二 (健康栄養学科2005年卒)

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

皆様は、ご卒業を機に新潟医療福祉大学同窓会の正会員となられました。本同窓会の目的は、会員の皆様が専門職として社会に貢献するための資質向上(スキルアップ)と会員相互の親睦です。そのため、臨床現場における職種間連携事例の発表

と、新たな連携方法を模索する「連携研修会」や、卒業生の活躍等を載せた広報誌『伍桃』の発刊、また在学生支援として連携授業への講師派遣、国家試験の合格祈願グッズ配付などの事業を行っております。

そこには、卒業生それぞれが職場で直面する課題や改善策を共有し、自らの現場で活かしてほしいという願いはもちろん、在学生に対しては現場で経験を積む先輩との交流機会を設けることで、思い描く理想と現実のギャップをできる限り減らして現場(社会)に出てほしいという願いを込めています。その学びの場を提供することこそが、私たちの役割だと考えています。私たち専門職の立場や求められる役割は年々変化し、私たち自

身の考え方や仕事への向き合い方も変わっていきます。そんな時は、ぜひお気軽に各事業へご参加いただければと思います。

最後に、私自身の経験から皆様の今後のご活躍を祈念し、お伝えしたいことがあります。

私は中学校に勤務していますが、今の子どもたちは選択する力はある反面、継続することができない子が多いと感じています。「鉄は熱いうちに打て」という言葉を借りれば、どの鉄が好きかを選ぶことはできても、選んだ鉄が自分のイメージと違うと感じるとすぐに目的を見失い、辛いという理由で鉄を打つことを止めて手を離してしまうのです。

これから社会に出る皆様にとって重要なのは、「鉄は熱いうちに打て」に加えて「その熱い鉄をすぐに離すな」ということだと思います。働くということは思い通りにいかないことの繰り返しで、楽しいことよりも辛いことの方が多くあります。ただし、辛い思いをしなければ得られないものが必ずあり、続けなければ分からないことが多くあります。相手のためには自分が苦しむべきこともあります。そういった時には、今自分にできることを常に考え、誰のために何をするのか明確にして仕事を続けてほしいと切に願います。

そして、悩んだ時には本同窓会をぜひご活用いただければ幸いです。思い悩んだ経験はご自身の糧となるだけでなく、同じ悩みを持つ仲間にかげがえのない力を与える喜びに繋がることでしょう。

EDITOR'S NOTE

編集後記

伍桃が生まれ変わりました！形や色合い、雰囲気フリーペーパーかと思うぐらいポップな仕上がりになりました。同窓会ができ10年が経過した今日、様々な分野で同窓生が活躍しており、その姿がこの一冊には詰まっています。今後は一方向からの情報発信ではなく、それぞれのフィールドで働く同窓生を“つなぐ”役割を担えるよう、今後も皆様のお力を借りながら作成していきたいと思っております。最後にこの場を借りて今回の作成にご尽力いただいた皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

作業療法学科 2011年卒 高野 葵

新潟医療福祉大学同窓会

問い合わせ先：新潟医療福祉大学 事務局内 同窓会支援室 新潟市北区島見町1398番地

メールアドレス dosokai@nuhw.ac.jp

電話番号 025-257-4455